

第2回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会
会議録

平成26年10月

竹 富 町

企画財政課

会 議 録

会議の名称	第2回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会				
開催日時	平成26年10月24日（金曜日）午後3時～午後5時				
開催場所	竹富町離島振興総合センター				
委員長及び 副委員長	委員長 上妻 毅 副委員長 池間 義則				
委員	氏名	出欠	委員	氏名	出欠
1	赤嶺 毅	出	2	池間 義則	出
3	今井 恒子	出	4	上里 至	出
5	越善 靖夫	欠	6	大城 肇	欠
7	大浜 一郎	出	8	上妻 毅	出
9	土屋 誠	出	10	三木 健	出
○竹富町出席者 竹富町長 川満栄長 事務局／企画財政課 ・課長 勝連 松一 ・課長補佐 新盛勝一					
会 次 第	1 開会 2 町長あいさつ 3 委員長あいさつ 4 現地視察にかかる概要報告 5 竹富町西表東部出張所の現状及び課題について 6 議事 （1）第1回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会の論点などについて （2）新庁舎建設に関わる竹富町の概況について （3）竹富町新庁舎のあり方等ビジョン検討調査（仮称）について （4）来庁者アンケートの実施状況について （5）今後の課題と検討事項について ・各出張所のあり方について 7 質疑応答及び意見交換 8 今後のスケジュールについて 9 閉会				

1 開会

新盛補佐司会

開会する旨を告げる

2 町長あいさつ

川満町長

委員の皆さん、改めまして、こんにちは。先ほど、司会の方からもありましたけれども、皆様が、大変お忙しい中、このように日程を調整して頂きまして、ご出席を賜りましたことを心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

皆さんが住んでいる、この大事な沖縄県で二番目に大きな島、西表島であります。人口は、竹富町は4千人いるようですが、過半数の2300人がこの西表島に住んでおります。このような島ですし、いつも会議の時には、皆様には呼びかけてお願いしていることが一つあります。それは、八重山全体で実は8月からまとまった雨が降りません。大変、雨らしい雨がなくて、竹富町の特に波照間島では、キビが枯れかかっておりまして、雨が欲しい、そういうような状況です。今週の月曜日には、渇水対策本部を立ち上げて、実施してこうと、職員一同で確認しているところですが、何よりも、まとまった雨が降ってくれるのであれば、有難いことはありません。今日は、晴れ男の念力は下げて頂いて、雨男がいればぜひ、念力をアップして頂いて、雨を降らせていただきたいということを、まず冒頭で念じたいと思っております。竹富町の中でも最も西表島に、実は水源地が五つもあります。あと一つ増やそうということで、今計画を進めております。今年度、承諾を得るべく、いま進めているところですが、他の黒島、新城、小浜、鳩間島、みんな西表島から給水しておりまして、まあ、中心地になっているのもこの西表島であるということでもあります。

それから、この西表島の場合は、竹富町の町民が一同に会する機会はほとんどありません。ですから町が、一年に一度はお互いに、その絆を深めよう、交流を深めようということで、球技大会を催しております。この中心になっているのも、この東部地区です。これは、利便性が、他の島々からの、図られているということで、こちらを中心に行っております。このような地域でありますし、とにかく、竹富町全体でイベントをすることでは、こちらを中心と考えて開催をしているという、これまでの経緯もあります。

また、世界自然遺産登録のコアの地域にもなっていてまして、今後、全世界からの注目を浴びて多くの人々が訪れるであろうということが予測される地域であります。昨年の実績では、八重山が94万人も入ってきておりますが、実は竹富町は105万人余りが入っています。その中で一番多いのは、竹富島です。45万人余りが入っております。この西表島は、34万人余りも入っております。ちなみに、隣の宮古島は40万人ちょっとですから、それと比較しても、どれくらい多くの方が、この竹富町に入ってきているか、とういのがお分かりいただけるかと思えます。どうぞ、この2番目に大きいこの西表島の大地を踏みしめながら、調査も行ったということです。百聞は一見にしかず。しっかりこの庁舎建設

はどうあるべきか、ということ、客観的にぜひ専門的な見地からご意見を賜ればという風に思います。そんなお願いをして、挨拶としたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局（新盛課長補佐）

本日、初めて有識者委員会へご出席されております上里委員、大浜委員がいらっしゃいますので、恐れ入りますがここで自己紹介をお願いしたいと思います。

上里委員

あいさつ

皆さん、こんにちは。上里でございます。八重山で戦前から続いておりました八重山支庁が廃止されて、私とその初代の所長でございます。変わったときの初代の所長が、私、上里でございます。やはり、それなりに苦勞もいたしましたが、非常に楽しませていただきました。その後、物産公社に移りまして6月27日に退任いたしまして、いま、悠々自適で過ごしております。ただ、やはりこうして、竹富の町民の皆様方、先生の皆様方と一緒に議論できることを、非常に光榮に思っております。宜しく願いいたします。

大浜委員

あいさつ

皆さん、こんにちは。大浜でございます。実は、私の祖母が新城島の出身でございます。大原にもなにかしらのお手伝いもさせていただき、非常に親近感を覚えているところであります。今回は積年の竹富町の課題を検討する委員としてご使命を受けまして、非常に光榮に思っている所存でございます。竹富町の皆様の声をちゃんと聴きながら、どういう方向性を歩んでいくか、ということ、しっかり提案させていただき、それなりの方向性が作れたらな、という風に思っておりますので、最後までしっかりと任務を果たしていきたいという風に思っております。宜しく願いいたします。

3 委員長あいさつ

上妻委員長

皆さん、こんにちは。改めてご挨拶させて頂いております、委員長をおおせつかっている上妻毅と申します。今日は第2回の委員会ということで、ここ大原で開催できることを大変うれしく、有難く思っております。特に、大変ご多忙な中、お集まりいただきました委員の先生方、ご準備頂きました事務局、そして、お運びを下さいました町民の皆様方、ありがとうございます。はじめに申し上げたいのですが、この竹富町新庁舎のあり方検討有識者委員会、これはどういう会議なのか、という問いがあるのではないかと思います。マスコミの皆様もいらっしゃっております。私の認識を一言だけ申し上げます。庁舎の移転問題があります。長年、半世紀に及ぶ懸案であること、また、9つの有人島の竹富町において賛否両論があることを承知しております。そしてこれまで、この問題に関わってきた方々が、どれほどご苦勞を重ねてきたか、私なりに承知しております。そして、庁舎の

移転、建て替えは、現庁舎が危険家屋化していることから決まっている。その上で、庁舎の移転、建設はゴールではないということを申し上げたいと思います。庁舎の建て替えは、プロセス、あくまでも一過程ではないかと思えます。では何のためのプロセスか、この会議は何を論じるのか、ということなのですが、新しい竹富町役場のあり方、目指すべき町政の姿、特に住民の皆様への行政サービスのあり方、この問題を 9 つの有人島を前提に考える、目指すべきビジョンを考えながら協議するというのが私の認識でございます。特に、この竹富町の場合、島嶼型の自治体であることにこの町の難しさがあります。町民の皆様のご苦労がある、行政のご苦労があると思えます。しかし、もっともっと良くしていける可能性もある、改善の余地も含めて可能性がある。だからこそ目指すべき姿を考え、追求していくということで、少し固い言い方にはなりますが、島嶼型の地域構造を、ある意味町の宿命として受け止めながら、どうしたらよりよい行政サービスを提供していけるか、その際に目指すべき役場のあり方は何なのか。単に、庁舎という施設、建物としてではなくて、本庁舎、支所、出張所、その他、一言で申し上げますと行政施設の再編ということになってくると思うのですが、それらを結び、ネットワークとして全体像を描く。行政と町民の皆様との関わりを基本に、皆さんがよかった、これは良いと思っていただけるような、新竹富町役場が目指すべき姿を考える。そのためのステップやロードマップを考えていくというのが、この委員会に与えられたミッションではないかと考えております。委員各位におかれては、それぞれのご経験、ご専門、キャリアはもとより、竹富町を思うお気持ちを含め、これ以上ない方々にお集まりいただいていると思えます。ぜひ率直に、忌憚のない、願わくば建設的なご意見を賜りたいと考えております。前回の会議が 3 月 28 日でした。少し時間が空いてしまいましたが第 1 回目の会議の論点も振り返りながら、第 2 回の会議を有益に進めていきたいと思えます。どうぞ皆様、宜しくお願いいたします。

4 現地視察にかかる概要報告

事務局（勝連企画財政課長）

皆さんこんにちは。本当に先ほどは現地調査お疲れ様でした。現地視察に関する概要報告をしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。先ほど現地 10 箇所を周ってきました。その 10 箇所から 1 箇所絞り込まれたプロセスを説明したいと思えます。現地視察の資料 47 ページですけれども、まずステップの第一段階として自然条件、地形条件とか地質条件とかそういった自然条件をスクリーニング、ふるいにかけております。法規制条件、これは自然公園、あるいは森林関係、文化財、そういった法規制条件。3 つ目に土地利用条件、これは現況の土地利用状況ですね。それから主要プロジェクト条件、これは土地改良計画等がございますが、こういった 4 点でふるいにかけて候補地を選定いたしました。1 点の条件は 5,000 m²以上ということで、まず大富周辺に 3 か所、大原周辺に 4 か所、豊原周辺に 3 か所、合計 10 箇所が今日周ったところです。その 10 箇所の中から第 1 次候補の選定といたしまして、まず役場の庁舎建設検討委員会、これは全課長と局長で構成さ

れましたけれども、10箇所から6箇所に絞り込みを行いました。第2次選定といたしましてさらに6箇所から4箇所に絞り込んであります。そして第3回では点数を設けまして一番よいと思う順に4点、3点、2点、1点という点数で投票したところ、一番点数が高いのが離島振興総合センターの北側隣接地で62点、二番目が豊原周辺の交流センター東側が39点、離島総合センターの敷地が34点、大原小学校北側背後地が25点ということにしぼられ、得票が多かった離島振興総合センター北側に、課長級で構成する庁舎建設検討委員会では決定したのです。平成13年9月20日の第2回役場移転審議委員会2日目に全審議委員がこの選ばれた候補地を周って、離島振興総合センター北側に決定したという経緯がございます。これが諮問に対する方針が3月20日になされました。その後平成23年ですか、3.11の時に東日本大震災で大きな被害を受けたその結果、この役場移転地は大きな津波がきても本当に大丈夫かと多くの町民から声が寄せられ、また2回目の審議委員会を立ち上げてまして町長の方から、この回は移転の場所についてのみ諮問をしています。その時に候補にあがったのが、前回の1位と2位の箇所です。その2箇所からの両方のメリット、デメリット等を色々審議委員会で審議しております。そのことが資料52ページに書いております。もちろんその時のメンバーも異なりますので、もちろん10箇所から絞られた背景もきちんと説明しております。2回目の諮問の時にメリット、デメリットをきちんと説明し審議委員の皆様へ審議、あるいはまた現地調査もしていただきました。最終的には57ページの答申にも示してありますとおり、審議委員の方々に投票していただいて、離島振興総合センターの北側が21票、交流センター東側が5票、無効が3票ということで、離島振興総合センター北側に決定をしております。その時の状況としましては、条件として自然災害に強い、台風や地震、津波などに対する必要な防災対策をきちんと講ずることという条件がつけられて、離島振興総合センター北側隣接地を適地とする答申を得られたのが審議委員会の結果であります。それを受け今日に至っているというのが現状であります。場所の選定に関する流れはこのようになり、今日皆様にも現地をみていただいたとおりでございます。

5 竹富町西表東部出張所の現状及び課題について

竹富町総務課 宇根主幹

皆さん、こんにちは。西表東部出張所に勤務しております総務課主幹の宇根信夫と申します。宜しく願いいたします。それでは、東部出張所における現状及び、課題についてお話をさせていただきます。職員は現在1名、勤務時間は本庁職員と同様、午前8時30分より正午の1時間の休憩をはさみ、午後5時15分までの勤務体制となっております。所管区域は西表島東部地区、南から豊原、大原、大富、古見、美原、海を隔てた新城島を含む区域となっております。業務内容におきましては、本庁の各課で取り扱っております窓口業務のほとんどを、当出張所で取り扱っております。それでは順を追って取り扱っている業務について紹介いたします。

総務課：総合センターの管理及び許可申請、使用料の徴収、車両管理、沖縄県証紙の販売等

総務課住民係：離島住民割引運賃カードの申請、年金関係届（社保からの切り替え等、年金免除申請）、住基関係の申請（転入・転出届、他 9 項目の申請）、証明書発行（住民票の謄本、抄本、除票、戸籍の附表）、戸籍関係（謄本、抄本、除籍証明、印鑑登録証明証等）等について専用のファックスを用いて発行

税務課：住民税の申告、軽自動車の申告、標識交付、廃車申請手続き、証明書関係（納税、所得、課税、扶養、資産、評価証明等の発行ほか）、住民税、固定資産税、軽自動車税の徴収業務

健康づくり課：国保税の徴収、国保異動届、加入・離脱届、他 15 項目の申請、こども医療費の認定、医療費助成金の申請、後期高齢者の認定、高齢者が移動にかかわる渡航費の申請、妊婦健診（妊婦会費、宿泊費の助成金申請）

介護福祉課：障がい者・高齢者の医療費助成金申請、渡航費の申請、児童手当認定申請、現況届・受付等、臨時給付金の申請

建設課：団地入居の申請、収入申告申請、家賃徴収

水道課：水道異動届、給水開始、給水停止などの申請、水道料金の徴収

自然環境課：犬・猫の申請、使用済み自動車回収補助金交付申請、有害鳥獣捕獲申請受付等

教育委員会：保育料の徴収、県立移動図書館への協力、市立図書館貸出申込書受付、各イベントへの協力、対象備品の貸し出し等

以上が、住民の皆さんが窓口へ来たとき、本庁各課との連絡を取り合い、ファックスまたはメール等を利用して業務を処理しております。また、証明書の発行手数料料金、県証紙の販売金、各税金の徴収金については、毎週 2 回火曜日、金曜日に大原ゆうちょ銀行より本庁へ送金しております。証明書の発行数、各種税金、手数料の徴収においては、月々のバラつきがありますが、証明書の発行件数は月に約 150～200 件、税金使用料徴収においては、約 150 万～200 万ほどの現金を取り扱っております。以上が、大まかな当出張所の業務現状となっております。課題においては現在、出張所では取扱いできない、印鑑登録交付申請、住基カード申請交付、身分証明書の発行、外国人登録業務等ができない点です。将来的には、当出張所においても取り扱うことができるのか。さらにもう一つ、住民からのニーズがあれば、午後の休憩 1 時間において、本庁同様、窓口業務が可能であるのか、以上 2 点を課題として取り上げようと思います。以上で、東部出張所の現状及び課題について終わりにします。ありがとうございました。

6 議事

上妻委員長

議事(1)第 1 回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会の論点などについて、(2)新庁

舎建設に関わる竹富町の概況について、(3)竹富町新庁舎のあり方等ビジョン検討調査（仮称）について、事務局に説明を求める。

事務局（勝連課長）

お手元の資料の 1 ページ、第 1 回の竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会の論点等についてという形で、第 1 回のを、まとめさせて頂いた。

上妻委員長

非常に項目も多いので、私の方から概略をお話しさせていただきます。新庁舎建設とビジョン、行政サービスの確保・向上、庁舎移転問題、そして検討課題ということで、各委員からのご意見などを論点整理という形でまとめております。すべて読み上げることはいたしません。抜粋して申し上げます。

新庁舎建設とビジョン

- ・移転先のビジョンではなく、9つの島にとっての新庁舎のビジョンが求められている

行政サービスの確保・向上

- ・行政サービスを上げていくことを視野に入れたビジョンが求められている
- ・行政サービスの確保、行政サービスを落とさない
- ・行政サービスの向上と改善を明確に目標に据えるべき
- ・庁舎はどういう役割を担うのか。どういった役割を担えば竹富町の行政が上手くいくのかを考えるべき
- ・本庁舎、支所、出張所を含めて 9 つの島に住む人々のネットワークをつくり、行政サービスを遍く届けることが要件

庁舎移転問題

- ・庁舎の建て替えそのものは不可欠。移転先も特定された状況。
- ・どうすればみんなが納得できる移転ができるのか
- ・非常時には防災拠点として機能することを含め、過去のメリット/デメリット論を超え、もう一歩進めた論議が必要
- ・情報・雇用・観光といった新しい切り口から、庁舎の役割を考える
- ・東通村では、旧むつ市にあった村役場を行政区域内に移転した。その際、職員の意識、住民の意識に変化があった
- ・住民投票に関しては、西表とそれ以外に二分されるような事態は回避すべき
- ・移転をする・しないの二者択一でいいのか、16 の島々で成り立つ竹富町としての一体感を大事に考えるべきではないか

検討課題

- ・石垣市の生活圏・経済圏に入っている中で、どうすれば庁舎の移転の問題も含め、満足な行政サービスを提供できるのか
- ・「移転は困る」という方々の意見こそ大事なのではないか

・「新竹富町役場」として建て替えられた中で、支所、出張所、一部郵便局などを通じて、
どういう機能を確保・強化していくのか、町民に喜ばれるような機能強化とは何なのか
3 ページは、第 1 回の会議に欠席された上里委員から、私が直接ヒアリングをしてまとめさ
せてもらった。上里委員、ご説明をお願いします。

上里委員

その前にまず確認したいが、現地調査資料の 57 ページ、これはあくまで答申であって決
定するのは町長ということによいか？ところが決定されるにあたって、これまではいろい
ろな議論がなされ、まだ十分に積み切れていないところがある。その部分を明らかにしな
がら、庁舎のあり方はどういうのが良いのか、議論してほしいというのがこの委員会の趣
旨で間違いないか。

川満町長

はい

上里委員

そのような視点で考えた場合、竹富町の経済・産業を考えた場合、人の流れ、物の流れ
の 2 つから整理したほうがよい。人の流れは観光客の流れ、町民の方々の流れがある。も
の生活物資、必需品、建設資材など。ただこの流れは、現状は石垣港を拠点にしている。
そして、この石垣港を拠点としたこうした流れをどうやって変えられるのか。観光客の流
れは、石垣港を拠点としないと成り立たないので、変えられない。住民の流れはよく見え
ないところがあるが、ある程度の変更が可能かもしれない。もう一つ、物資の流れについ
ては、ある程度変更を加えられる可能性は十分にあると思っている。それであれば、拠点
が変わっていくのだから、東部を拠点とするようなものの流れをつくれば、東部に竹富町
庁舎があって、それを中心として西表、町全体が活性化していく。そういう仕組みづくり
が必要になってくる。そういった視点で見ていった場合、この庁舎のありかたと密接にか
かわる。島と島を結ぶ船のネットワークがないところがある。例えば西表東部から黒島、
波照間に行く船はない。庁舎を移したときに、合わせて拠点となりうる場所から場所へと、
それぞれの島々を結ぶ、路線がどうしても必要である。そして、そこに何を運ぶのか。観
光客の流れはすでに確定していて、変えることはできない。しかし、物の流れや住民の流
れはある程度は変えられる。この新庁舎を拠点化して、その拠点と石垣港を結びつけてお
けば、町全体のネットワークがつくられるのではないか。ただ、そのときにいろんな船が
参入するわけだが採算ベースにあうかどうかは気になる。せつかく船がそのネットワー
クを作り上げた後に、上手く行かず、すぐに撤退するのであれば意味がない。そういうと
ころを、しっかりと形にすることが庁舎の移転と密接にかかわっており、竹富町そのもの
の活性化につながる。そういうことを踏まえて今後議論を深めたいと思っている。

上妻委員長

ありがとうございます。新しい行政拠点が結節点として、ネットワークを含めて考えて
いかなければならないという、大変重要なご意見だと思います。ありがとうございました。

それでは、維持の確保に新庁舎建設にかかわる竹富町の概要について、4 ページ以降について事務局から説明をお願いいたします。

事務局（勝連課長）

（新庁舎建設に関わる竹富町の概況について）説明

上妻委員長

ありがとうございました。22 ページはアンケート調査も含むビジョン検討調査を実施している。その中の一つ、「来庁者の目的・ニーズ等の役場庁舎の現状に係る実態調査」が具体的な第一弾です。その竹富町来庁者等アンケート調査集計結果概要というもう一つの資料になります。説明をお願いいたします。

事務局（勝連課長）

アンケートの調査期間については、本庁舎及び出張所、郵便局において各 2 か月間で実施いたしました。このアンケートの集計をしてみて、アンケートの取り方について、非常に反省させられたところがありました。1 ページに書いた通り、来庁者の目的把握については追加調査実施を検討している。一日当たりの総来庁者数はいくらなのかが実際わからないことがあり、今度は月曜から金曜までの 5 日間を、月を変えて 3 回くらい実施したらどうか、そういった調査をした上でアンケートの結果の報告をしていきたいと考えております。今回は 2 ページの方をご覧になる通り、2 か月間で 132 件のアンケートしか回収できなかった。非常に少なくて反省している。内訳を申しますと、本庁舎が 50 件、それから 3 出張所で 54 件、4 郵便局で 28 件という非常に少ない数の集計となり、大いに反省させられた。今度はもう一度、同じ内容で、月曜から金曜までの 5 日間における総来庁者数の調査と併せてアンケートも並行して実施したい。

（アンケート結果の説明）

今回は、アンケートは 132 件という、少ない回答数であり、お客様には積極的にお願いしたけれども、なかなか気持ちよく協力して頂けなかったというところがございます。次回のアンケートの際には記入式ではなく聞き取りをするようにすれば、もっと件数は上がるのではないかと思う。お年寄りが多いので、そういった方々自身が読んで回答するのは厳しい。また、時間に追われている関係で、お答えいただけなかったという方もいらっしゃいますので、今後アンケートの取り方については研究して、次回の会議の際に報告していきたい。

上妻委員長

ありがとうございました。議事がございます 1~4 までは済みました。5 番目が今後の課題と検討課題について、と続きますが、その前に委員の方々からご質問やご意見を頂きました。

い。そのようなご意見が今後の課題や検討事項となるものと思います。

まず、このアンケート調査ですが、説明にもあったとおり母数が少ない。132 件のうち、県外を除くと町民は 100 ちょっと。なかなか難しいとは思いますが工夫、改善をする必要があるかと。また、一日にどれぐらいの人が実際に足を運んでいるか、そして、どういうニーズがあるかということ把握したいので、ぜひ続けて実施して頂きたい。また、アンケート調査の 5 ページにもあります通り、少ない母数ではありますが、利用目的の 1 位が総務課・住民係、2 位が税務係、3 位が介護福祉課となっている。一方、来庁者からのコメントについてはそれぞれお読み頂きたいが、重要なご指摘がありました。

「出張所ではできない申請も多く、結局は石垣島の役場まで行く必要がある」、また、「出生届が出張所では出せない」といった意見、また、「出張所の機能が拡充されるととても助かる」といった意見があった。一方、転入したばかりの方からは「出張所の存在を知らなかった」という意見もございました。全体の集計では、本庁舎については税務課の利用が多かった。本庁舎でなければできないこと、出張所でもできること、このあたりの具体的な内容も気になったところ。長くなりましたが、一通りご説明もいただきました。概況、アンケート集計結果に関してご質問・ご意見などがあればお願いしたい。

土屋委員

その前に確認させて頂きたいことが 2 つあります。一つは議題にあげられておりますビジョン検討調査というのをもっと具体的に、どのようなことをするのか説明してほしい。また、もう 1 点は、アンケート調査結果を今後どのように生かすのか、委員長などのお考えをお聞きしたい。

事務局（勝連課長）

22 ページの各項目について調査・研究を行い、こういった調査結果を委員の皆様提供していき、庁舎がどうあるべきかという判断材料を提供できればと思う。これについては、町の方ではできないところに関しては業務を委託しており、委託の成果も併せて、基礎的なデータを提供し、新庁舎建設のビジョンということに関して活かしていきたい。

上妻委員長

例えば、2 番目の行政サービス向上に資するネットワークの構築に関する事例等調査。具体的には佐世保市、小値賀町などの、いわゆる島嶼型の市町村が調査対象です。島々を抱え、複数の出張所や支所のある自治体の現地調査を予定している。佐世保市や呉市など吸収合併によって行政区域が拡大した島嶼自治体では、行政機構の再編を行いコンパクトにしていくという方向で、竹富町とベクトルの方向が違うかもしれない。が、島嶼型の地域構造の自治体で、行政サービスの維持・改善を図るためにどのような取り組みがなされているかを学び、竹富町に活かすというような趣旨と理解しています。1 番目のニーズ調査、2 番目の事例調査を踏まえまして、3 番目の新庁舎、支所などの機能分担及び規模その他諸要件に係る検討調査につなげていく。そのための基礎情報、参考情報、事例などを提示し

ていくことが竹富町新庁舎のあり方等ビジョン検討調査の趣旨だと理解しております。

上里委員

このアンケート調査の結果ですが、石垣島に近い竹富島住民は本庁舎の利用割合が高い。データの数が少ないのではっきりとしたことは言えないが、黒島、小浜、鳩間、波照間も本庁舎を活用している方々が多い気がする。西表東部、西表西部も少し本庁舎利用が多い。そうすると、仮に石垣に支所を置いて、拠点となる本庁舎を西表に移した場合、十分に機能がはたせるのではないか。そういう気がしますがどうですか？

本庁舎の利用と、各出張所の利用結果は、出張所の利用者は私たちが見ているよりも、多いという感想がある。この本庁舎の利用者と、出張所を利用する人の割合がほぼ似通っているのは、竹富とか、西表西部とか、波照間などの 3 つの島では、本庁舎利用者が多い。その他の島々では、支所を利用している人が多いと感じる。

石垣の現庁舎を出張所にして、庁舎を西表に持ってきた場合、利用者の割合は変わらないのではないかと、そういう気がしているのですけれど、データの数が少ないということもありますけれども、どうでしょうか。

川満町長

アンケート調査は今後とも続ける必要がある。できるだけ 1 年間を通じて、どれくらいの方が本庁舎を訪れているのか、何が目的なのか、ということなどに関しては、今後とも継続して調査していく。

過去に役場移転に関して各島々で実施した説明会で、最も多かった要望は、経済の中心地は今後も石垣市で変わらないだろう、高校があり、金融機関があり、病院があり、色々な量販店、資材店など様々な施設がある。石垣に支所は必ず作って欲しい、機能を充実させてほしいという要望がトップであった。また、本庁舎を西表で作る場合は、石垣島の支所も利用しながら本庁舎も利用するということになると思うのですが、海上ネットワーク構築をしっかりとしてほしいというのが 2 番目の要望であった。また各島々の住民の要望としては、自分たちの島々にある出張所、支所をしっかりと設置し、職員を配置して行政サービスの向上を目指してほしい、という 3 点が地域からの強い要望であった。

上妻委員長

ありがとうございます。老朽化して危険な今の庁舎を壊して移転させた後も、行政サービスの質は落とさない。そのための具体的な方法として、先ほど町長からもありましたように、各出張所の機能拡充という重要な課題がある。一方、支所あるいは出張所を石垣に残すという面では、例えばナンバープレートの発行といったことがある。ナンバープレートはバイクを売っているところで発行しないと意味がない。販売店は石垣にあるので、発行場所は石垣にないと困る。機械的にあらゆる業務を移してしまうと、かえって不便になる、行政サービスが落ちるといったこともあると思います。石垣に残し、そこに配置する機能も、利便性が落ちないようにという観点から洗い出すことも必要と考える。また、本庁舎利用者と各出張所利用者の割合についてだが、本庁舎利用の割合が出張所利用の割合を超えているのは竹富だけ。ただ、これ

は出張所や郵便局を利用した方のほうが時間に余裕のある方が多かったとか、アンケートに好意的に回答してくれただけかもしれない。母数を上げることを含めて、データを正確なものにしていく必要がある。

池間副委員長

このアンケート結果は大変興味深い。回答数が132件しか集まらず少し残念ではあるが、そこで、出来るかどうかのご質問なのだが、これは課別になっているが、受付件数、相談件数であれば、もっと多いのではないか。なので、職員が対応する際に記録すれば、より密度の高いデータが取れるのではないか。役場のほうで、これは可能か。

事務局（勝連課長）

アンケートを取る際に、この点は大変気にはしていました。職員は業務もありますので、アンケートのためにずっとお客さんについているのも厳しいということで、お客様自身に記入していただくという形でご協力いただいた。時間的に余裕のある方はゆっくりその場で回答いただいたのですが、石垣島にいらっしゃる方は、時間に追われている方も多く、書く時間のなかった方が多いのも事実である。この点について、どういう風に解決すれば良いのか。

池間副委員長

事務処理件数の数字をまとめるだけでも良いアンケート調査になるのではないかと、という案である。あくまで件数だけで。

上妻委員長

来庁者に回答していただくのではなく、窓口業務として対応した役場の担当者の方が何の要件で来たかを記録すればよい。そのうえで、どこから来た方かを把握できればなおよい。

大浜委員

今回本庁舎を移そうということですが、アンケートの内容的には出張所の充実さを求めていますけれども、内容的には機能を進めるとかワンストップサービスを拡充するとか、実際には運用上の対応でこと足りることがあると見受けられる。しかしながら、今回は庁舎を移転するというので、今まで石垣にあったのは利便性が良いからだけである。海上のインフラを整備しなければ、利便性はまったく今よりは悪くなる。経済面においては、物流も観光の誘導性においても石垣が中心であることに今後も変わりはない。なぜ庁舎を移すのかというと、竹富町の拠点の町を創りたいということではないか。新しく本庁舎を移してまちづくりをしようというようなイメージをここに持ってくる際に、どのようにここに本庁機能をおいて、これまでと同じくらいの機能、これまで利便性がよかった石垣に各種必要な手続きを石垣の支所としてしっかり残さざるを得ない。単純に、今の本庁舎機能を竹富町に移すのではなくて、何をどうするのかということと、拠点の町を創ることはわけて考える必要がある。今後、ブロードバンドの環境も整ってくると、実は通信で出来ることはいっぱいある。ファックスでも通信でも、各島でも必要な書類は取れる。したがっ

て、西表に庁舎を物理的に移すことのイメージづくりをもっとしっかりして欲しいというのだけれども、アンケート内容ではこういうサービスが欲しいというのがあまり見受けられない。庁舎移転に際してサービスの質を落とさないというのが前提であるけれども、ではどのようなサービスが必要なんだというものが欲しい。発行物は IT でなんでもできる。どのようなサービスが必要で、どのようなサービスを本庁で行って、どのようなサービスを各島々の出張所に充実させていくのか、ということを経路づけて議論してはどうか。

今井委員

アンケートの結果を見まして、届出など書類的なことはネットをつなげれば全部できる。各島々の方と面談しなければいけないことでも、今ではテレビ会議が充実しているので、出張所に行けば本庁とつなぐこともできる。また、これから高齢者が増加することを考えると、わざわざ石垣まで動かなくてよいシステムづくりというのも大事なのではないかと考えられる。IT をうまく活用していただいて、西表に移転するなら、わざわざ遠くまで行かなくても済むような、物理的な利便性などのメリットがないと、何のためにということになる。もっと IT を活用していけば、移してよかったという部分も出てくる。

三木委員

役場移転にからむ問題としては、学校や病院、銀行などの施設が石垣にあり、その用事のついでに石垣の庁舎に行けるから、石垣に本庁舎があるのが良いという意見が多いのだと思う。これについては、IT の利用で相対的には業務がへっていきだろう。ただ、今は高齢化社会でお年寄りが多い。役場を移すことによって行政サービスは当然としてまちづくりのサービスや行政活動が盛んになるなど、まちづくりのビジョンを示していくことが賛同を得ることにつながると思う。町役場の移転ということだけでなく、町全体のまちづくりのビジョン、そういうものをある程度示して、島々の人たちに利便性だとか行政サービス以外の面でもよくなるということを示していければと思う。例えば、こっちには食堂が 2 件しかないが、食堂も増えるしスーパーも増えるしということにしないと、庁舎移転の問題だけでは良くならない。この問題にからんで一番重要視しているのは、町の人口が漸減していつていること。今は横ばいで安定しているようだが、長期的には減っている。このままでいいのか。役場の移転を考えている間にどんどん人口が減ってしまって、町役場移転どころではなくなってしまっているのか。せつかく百何十人と職員が働いている町役場を持つてくることの経済効果、波及効果がある。人口減少に歯止めをかけることにつながると思う。最近、読んでいる本によると、2040 年には 896 の市町村が消えるということが書いてある。これは日本全国で、東京への一極集中が止まらない、東京に、20 代 30 代の子を産む世代の方々が出ていくことが、人口減少を急速に加速させる。だから地方の市町村は、将来的に人口対策室のようなものを作って、この問題を考えていくようにする、ということをやっている自治体もある。人口減少の歯止めをどう止めるかという視点をこの問題の中に入れないと、目の前のことだけで終わってしまう。

(参考 ; 「地方消滅-東京一極集中が招く人口急減」中公新書 増田寛也著 2014 年)

土屋委員

皆さんほぼ同じことを考えているかと思うが、違う言葉で表現をさせてもらう。例えば、自分自身が役場に勤める職員、あるいはその町民だったとすると、役場を移るとなったとき、役場の職員あるいは住民自身の生活がどう変わるか、という点が一番気になるはずである。しかし、その具体的な内容が、これまでの説明会などであまり示されていなかった。例えば職員の宿舎が用意されていると書いてあったが、どこにどの規模のものをつくるのか、何人くらいの職員が来ることを想定されているのか、家族が一緒に来るのであればそれでも違ってくるであろう。そうすると、新庁舎を建てる場所以外にも、こうしなければいけないという事象が色々と生じる。これらが自然環境にどう波及するかが気になるところ。職員が家族で移れば子供も増える。生徒の数が増えれば、教育の体制も変わってくる。その辺は職員の方も具体的に頭の中にあると思う。それは当然、医療の問題についてもそう。自分たち職員や町民が生活するうえですぐ気になるところの回答があまりこの説明会では示されてないと感じた。また人が増えれば物の動きももっと活発になるであろうし、そのような問題に対する対策はどうなっているのでしょうか。それらを全体的に考えたときに自然環境のバランスがどうなるのか、西表島としてよいのか。そういった懸案がでてくるでしょうから、国立公園や自然遺産への登録との兼ね合いも出てくる。具体的な部分を総合的に勘案して長期的なビジョンとして総合計画を作るのが良いのではないか。

赤嶺委員

今度の庁舎移転に関しては、原点は利便性のこと、町民は何を不安に思っているか。長らく石垣島にあった役場が、移ったらどうなるのかという不安が一番の問題。それを解決するためには利便性の問題が大事。たとえば交通。これはインターネット利用における問題があり、歳を取るとネットを使えない人もいる。だから、インターネットを活用できる人材の育成が必要。各役所にそういった職員を置くとか、対策が必要。交通の場合は石垣では観光客数がこれだけ伸びた。交通網がしっかりしていれば、西表に拠点を置いても不便とは感じない。あとは運賃。運賃を下げると利便性にも通じ、使う人も増える。これら交通網の問題を考慮すればそんなに不便ではないと思う。防災の問題は全国的に 3.11 以降に大きく取り上げられるようになったが、南海トラフ法が成立し、各公共施設は全て上（高いところ）に置いたほうがよいようになってきている。いろいろ利害関係もあると思うが、司令塔は絶対安全な場所でないといけない。移転候補地の高さは 10m だが、果たしてこれでよいのか。今の学者で言うと、そろそろ沖縄に大きな津波が来ると言われていて、それを考えた際に、安全基準というのは 21m と聞いている。そうすると、移転候補地は 10m であるから、司令塔の役割は果たせるのか。それで、建物は 7m ですよね。今、沖縄で、埋立地に市役所を建てようと計画しているところがあるのですが、これは、事業者建物を創らせて、それで、7 階以上が安全だということで、7 階以上を借りようという計画である。防災面も、大きく捉えて議論したほうが良いのではないか。

今井委員

防災の問題、利便性の問題、インフラの問題に関しては、かなり審議されつくしていること。また庁舎を移転した時に職員はどうなるのということも全部議論されている。さきほど三木委員が話したように、庁舎の移転だけではなくて、まちづくり。どういうまちをつくって行くのか。そして人口がどんどん減っていき、高齢化していくというときに、例えばキャッチコピー、若い人たちがたくさん働いて暮らす町だとか、珍しい島だとか、それで人口を増やすとか、離島がこれだけ動いているんだ、という今までにない、新たなまちづくりのビジョンを持たないと問題点を挙げるだけでは次に進まない、移転するだけではなくて、大きな目を見たときにどういうまちづくり、どういう人が来て、どのように住んで、高齢化の問題もあるが、そればかりでなくて、若い人や観光客を呼び込んでどういうふうにできるのか。そういったまちづくりができるのか。また、先ほど赤嶺委員がおっしゃったように、高齢者はネットが使えないという意見があるがそこにこそ雇用が生まれる。例えば、出張所に内地から若い人を呼んで、出張所で働ける、結婚して子供を産む、そういう夢のようなことを語らないと、こんな細かいことばかり言っていると、次に進まないし、夢も持たないし、もっとそういったところにも焦点を当てたほうが良いと思います。

上妻委員長

整理します。大変貴重なご意見を頂きました。一つは、行政サービスの維持向上。それと、人口減少問題を見据えた地域活性化の展望、庁舎移転に伴う新しいまちづくりの展望。こういった話をごっちゃにせず、議論を区分する必要があるのかなと思います。まちづくりに関しては、都市機能が石垣に集積しているという地域構造の中で、現実的な可能性を鑑み、そのうえで考えられること、新しいまちづくりを含めて、庁舎移転を機にまちづくりを考えなおすということであると思います。他方、行政サービスに関しては、IT・ICT、もっぱら行政サービスの向上に資するものとしてその活用を考える。ただ、高齢者、そのほかにも、そういったものが得意じゃない方もいらっしゃる。となると、人材の育成といったことも関わりが出てくる。具体的には、出張所の人員体制の問題、ICT で向上できること、人員体制を強化して向上できることなどいろいろあるのではないかな。検討すべき問題として、本庁舎以外におけるサービス向上がむしろ非常に重要であろう。

また、利便性と安全性という二つの要件がある。先ほど赤嶺委員からは、新しい庁舎が町の災害対策本部になるとき、海拔は大丈夫なのか？という意見がありました。安全性を重視すると海拔はより高いほうが望ましい。しかし、利便性を考えると港から近いほうが利便性は高い。利便性と安全性の間にトレードオフの関係がある。

平常時と非常時という分け方もできる。平常時、Wi-Fi の利用環境の整備は観光振興に役立つ。これが非常時、災害発生時に役に立たないか。役に立つだろうと思います。災害発生情報の伝達。災害対策本部との連絡、避難情報の提供など、災害発生時に非常に重要な問題と併せて考える。そうすると、平常時の観光と非常時の防災について、IT・ICT をど

れだけ有効に活用できるか。町民だけでなく、これだけたくさん来ている観光客にも災害発生時の情報を提供したりできるように。派手な話ではないが、これもまちづくりだろうと思う。災害対策本部として本庁舎があるけれども、全ての島々の防災、災害対策をどう強化していくか。庁舎移転先のまちづくりだけでなく、島全体を見据えた安心・安全のまちづくりを検討しなきゃいかんだろうというのが私の意見です。時間が許す限りで皆さんのご意見を頂ければと思います。

三木委員

行政サービスを低下させないのは当然のことであって、それプラスアルファ、竹富町役場の移転を契機に、竹富町がこのように変わるよと明示しないと、庁舎移転に反対している人達も、なかなか納得してくれない。

上妻委員長

先に片付けてしまおうと思いますが、事務局から今後のスケジュールを先に説明していただいて、あまった時間で議論にしたいと思います。

事務局（勝連課長）

（資料 26 ページ）今後のスケジュールについて、第 3 回については平成 27 年の 1 月～2 月に予定しています。次回の議題は、新庁舎建設に関わる重要事項、新たなビジョンの在り方について。第 1 回、第 2 回の審議を聞いて、それから事例調査の報告という内容を考えています。次回は、今回、委員の皆様からこんな資料を作って欲しいとか調査をして欲しいなどの要望がございましたら、次回にお答えしていきたい。次回には委託業務についても中間発表として報告したい。第 3 回は、1 月～2 月に、皆さんのご都合をうかがって、最も多くの方が出席できるような日に設定していきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

三木委員

庁舎移転に伴う新たなビジョンというのはこの委員会で作るのか、それとも町議会などで作るのか。私たちは町役場移転に関する問題だけで、ビジョンづくりはそれを超える大きなテーマだと思う。そのあたりが、よく分からない。

上妻委員長

ビジョンの策定次第がまだ決まってないということです。もちろんビジョンは町で作るものと考えます。この委員会は、あるべきビジョンを念頭に置いて議論する。24 ページに今後の課題と検討事項の例示がでています。検討課題は、必ずしも行政サービス論に限定されないだろうと思います。ただ、アンケート調査や事例調査等を通じて、なんらかの行政施設の再編案を検討し、示していくというプロセスも必要でしょう。それによってより具体性が増していく。そうすれば、必要条件、十分条件のような話も出てきます。残るは今後のまちづくりをどうしていくかという問題。今後のまちづくりについては、なかなかぼんと出せるものではない面がある。なので、提案なのですが、委員会はだいたい 2～3 時間で委員の方々とお話しできる時間もおのずと限られる。ですので、事務局が個別に委員

を訪問し、ヒアリングやインタビューという形で、まちづくりに関してもご意見やご提案を頂くのが宜しいのではないかと。それも含めて、今後のまちづくりのあり方を検討していく。次の会議は皆さんのお話も含めて内容を積み上げ、ある程度、建設的で効果的なお話ができると思う。それではいかがでしょうか。

三木委員

ビジョンのたたき台があればそれをもって考えることができる。

上里委員

新たなビジョンのあり方の中に庁舎のあり方が含まれる、というイメージでよいか。もっと大きなまちづくりとかビジョンを全部組み込んだような、この庁舎のあり方というのはまちづくりに寄与、貢献するような面もあるというとらえ方、そういうイメージでよいか。

土屋委員

例えば、22 ページのビジョンの中の、新庁舎のあり方などビジョン検討業務、とあるが、もっとも重要なのは新庁舎の在り方だと理解できる。それよりもっと上のレベルのものを考えて、その傘下でこの新庁舎のあり方を検討するというところで話をしているが、そうではないでしょ？

上妻委員長

庁舎移転はゴールではなくプロセス。そのプロセスの中で、新庁舎だけではなく、全体のネットワークを含めて、こう良くしていくんだという全体像が求められていると感じます。くどいようですが、その中の一コマとして庁舎移転がある、そう思っています。ただ、それじゃあ足りないんだと、もっと展望を与えるようなまちづくりが必要なのではないかとといった意見もありました。ただ、そこのところは少し、ふわっとしている感じもありますので、改めて整理が必要と考えます。

上里委員

この庁舎のあり方委員会は、委員会の中で検討したことが全体的なビジョンの方にも反映されていく、そうすると全体的な事業の中でのあり方についてさらに検討が必要である、という位置づけでいいのかなと思う。

9 閉会

事務局（新盛課長補佐）

まだまだ審議の時間がほしい状況ですが、本日は竹富町西表島での開催ということで、貴重な審議をたまり誠にありがとうございました。これをもちまして第 2 回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会を閉会いたします。

◇参考

- ・本

「地方消滅-東京一極集中が招く人口急減」中公新書 増田寛也著 2014年出版